

研究ノート

アクティブラーニング型授業による授業改善の取り組み

Action of the class improvement by the active learning type class

大塚 和美^{*)}

Kazuyoshi Otsuka

要旨：本稿は、筆者が担当している福祉心理学科1年生の開講科目「福祉入門」において、平成29年度に実施した授業改善の取り組みに関する報告である。学生の意見は少ないが、得られた知見は以下の3点である。①学生は、グループワークを用いて課題に取り組むことによって、学習内容がより理解できると実感している。②学生は、グループワークを通して、正確に覚えていないことを認識する、互いに教え合うことで理解がより深まると認識している。③普段は会話をしない学生同士でもグループワークができる、楽しめる学生がいる反面、馴染めない学生もいる。個人への対応と履修生全員の理解が必要である。

Key Words：アクティブラーニング、アクティブラーニング型授業、主体的な学び、対話的な学び、深い学び

1. 研究の背景

1) アクティブラーニングの導入

文部科学省は、「予測困難な時代にあって生涯学び続け、主体的に考える力を持った人材は、受動的な学修経験では育成できない。求められる質の高い学士課程教育とは、教員と学生とが意思疎通を図りつつ、学生同士が切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する課題解決型の能動的学修（アクティブ・ラーニング）によって、学生の思考力や表現力を引き出し、その知性を鍛える双方向の講義、演習、実験、実習や実技等の授業を中心とした教育である。その際、実際の教育の在り方は各大学の機能に応じて異なるとしても、このような質の高い授業のためには、授業のための事前の準備（資料の下調べや読書、思考、学生同士の議論など）、授業の受講（教員の直接指導、その中での教員と学生、学生同士の対話や意思疎通など）、事後の展開（授業内容の確認や理解の深化のための探究、さらなる討論や対話など）やインターンシップやサービス・ラーニング等の体験活動など、事前の準備、授業の受講、事後の展開を通じた主体的な学びに要する総学修時間の確保が重要である。教員が行う授業は、この

ような事前の準備、授業の受講、事後の展開といった学修の過程全体を成り立たせる核であり、学生の興味を引き出し、事前の準備や事後の展開などが適切・有効に行われるように工夫することが求められる¹⁾。

大学全入時代となり、大学が機能別分化を進めつつも学士課程教育の質の向上に関わる方法の確立が、高等教育政策の中心課題となっている。本学では、小規模であること、対人援助職を養成する大学であることの特長・長所を活かした教育のあり方を検討し、実践していく必要性が急務である。

2) アクティブラーニングおよびアクティブラーニング型授業の定義

溝上は、アクティブラーニングを「一方向な知識伝達型講義を聴くという（能動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う」と定義している²⁾。さらに、「アクティブラーニングは、厳密に言えば、学生の学習（learning）の一形態を表す概念であって、教員の教授（teaching）や授業・コースデザイン（instructional / course

^{*)} 宇部フロンティア大学人間社会学部福祉心理学科助教

design)まで包括的に表す教授学習の概念ではない。(中略)筆者(溝上)は、アクティブラーニングを採り入れた授業である場合、それを教授学習の概念として、『アクティブラーニング型授業』と呼び、学習概念としてのアクティブラーニングとは区別している」と述べている³⁾。

小林は、溝上の定義で重要なことを「一つは、どんなに上手な講義であっても生徒や学生がただ聴いているだけでの状態は『受動的学習』であるとしたことです。(中略)もう一つは、学習の区別であることです。学習には『受動的学習』と『アクティブラーニング』があると述べているだけです」と述べている⁴⁾。また、アクティブラーニング型授業を「学習者にアクティブラーニングが起きることを含む全ての授業形式」と紹介している⁵⁾。

本研究では、アクティブラーニングの定義は溝上の定義を、アクティブラーニング型授業の定義は小林が紹介した内容に則ることとする。

3) アクティブラーニングの手法

2017年度ソーシャルワーク教育全国研修大会での教授法・ワークショップで紹介された教育技法の一部を抜粋した内容を表1～6として載せる⁶⁾。筆者はこれらの内容を参考にして、授業を展開するよう努めた。なお、手法においては、表1～6の内容を含めて、他にも様々な方法論がある。

2. 研究の目的

本研究では、以下の3点を明らかにすることを目的としている。

- ①アクティブラーニングの定義や手法を理解する。
 - ②「福祉入門」での取り組みを基に、アクティブラーニング型授業のあり方を検討する。
 - ③アクティブラーニングの現状と課題から、宇部フロンティア大学におけるアクティブラーニング型授業を検討・提案する。
- 本報告では、②について述べる。

3. 研究の方法

1) 研究対象

2017年度に「福祉入門」を受講した、福祉心理学科の学生35名を対象としている。内訳は、1年生25名、2年生3名、長期履修生・編入生4名、留学生3名である。

2) 調査期間

2017年4月13日(協力を依頼した日)から8月3日(講義の15回目)までとした。

表1. 知識・理解力の育成に有効な教育技法

①講義法 (Lecture)	・あるテーマについて、講師が説明する方法を中心に、参加者に伝える技法。
②クリッカー (Clicker)	・手のひらに収まる機器を使用し、学生が意思を表示するツール。
③理解促進テスト法 (Concept Clarification Test Method)	・授業内に、グループでテストを解かせるやり方。テストと言うよりも、テストを用いた集団討議法。
④間違いさがし (Search for Mistake)	・覚えなければならない事柄を教える際に、リビジットさせる1つの方法
⑤ペア・リーディング (Pair Reading)	・2種類の文献を用意し、ペアを組ませた学習者に配布する。学習者は分担して文献を読んだ後、その内容を要約して相手に伝え、学習する方法。
⑥ジグソー法 (Jigsaw Technique)	・3人グループの1人ずつが受け持って勉強した内容を持ち寄り、紹介し合って、ジグソーパズルを解くように全体像を協力して浮かび上がらせる手法。
⑦eラーニング (e-learning)	・メディアを介して行う授業。狭義ではインターネットまたはイントラネットを利用したコンテンツ配信、広義では衛星通信やテレビ会議、各種の電子機器による学習などをさす。
⑧反転授業 (Flipped Classrooms)	・伝統的な授業と授業時間外学習の役割を入れ替えた教育技法。
⑨チーム・ティーチング (Team Teaching)	・複数教員で教える教授法。教員同士の綿密な打ち合わせと振り返りが求められる点でFDとしての機能も持つ。
⑩ゲスト・スピーカー (Guest Speaker)	・コース(15回の講義)の一部に、通常の授業担当教員以外を講師として呼ぶ手法。

表2. 思考・判断力の育成に有効な教育技法

⑪ 質問法 (Socratic Method)	・ 講師が受講者に質問を投げかけて受講者の回答を引き出し、両者の問答を繰り返すことによって、受講者が正しい答えに到達できるように導いていく学習指導法。
⑫ バズ・セッション (Buzz Session)	・ あるテーマについて6人のグループ討議を6分間行った後、全体討議における結論にまとめていく技法(別名、6・6討議法)。
⑬ Think, Pair & Share	・ あるテーマについてまず一人で考えさせ、隣同士のペアで共有し、全体で共有する手法。
⑭ EQ トーク (EQ Talk)	・ 講義法と組み合わせた討議法の一種。講義の時間は、教材に大事などと思ったら「!」、疑問などを感じたら「?」を書き入れる。討議の時間は、「!」「?」のマークを入れた部分を共有しながら、議論が進むように指示する。

表3. 表現力の育成に有効な教育技法

⑮ 討議法 (Discussion) ディベート (Debate)	・ グループのディスカッション(討議、話し合い)。 ・ ディベートは、あるテーマに対して賛成・反対に分かれて、立論・反論といった論戦をさせ、勝敗を競わせるもの。
⑯ ポスター・セッション (Poster Session)	・ 教室内の壁に成果物を貼り出し、その前に発表者を置き、残りの学生は発表者を聞いて回り、必要であれば採点を行う手法。

表4. 問題解決力の育成に有効な教育技法

⑰ PBL (Project-Based Learning)	・ 一人ないしチームで、プロジェクト(自主的研究と総合的活動を必要とする研究課題)を遂行しながら学習しようという手法。
⑱ PBL (Problem-Based Learning)	・ 問題を解決することが求められる学習を提供する手法。 学生が自主的に学習することを求め、教員の発言は原則10%以下である。
⑲ チュートリアル教育 (Tutorial)	・ 少人数で構成された学生のグループにある課題が与えられ、学生がその課題を検討し解決していく教育方法。教員はチューターと呼ばれ、議論を進行させる役割に徹することが求められる。
⑳ ワークショップ (Workshop)	・ グループの相互作用の中で学び合い、作り出す双方向的な学びと創造のスタイルの学習方法。教員はファシリテーターと呼ばれ、学習者の相互作用を促進させる役割が求められる。
㉑ ブレイン・ストーミング (Brain Storming)	・ 参加者が課題について自由勝手に思いつきやアイデアを出し合い、そこから想像や連想を働かせていくことによって、さらに多くのアイデアを生み出していくこととする、アイデア発散手法。
㉒ KJ 法 (KJ-Method)	・ カード化された多くの意見、アイデアを同様のものを集めてグループ化し、論理的に整序して問題解決の道筋を明らかにしていくための手法。
㉓ ケース・メソッド (Case Method)	・ 実際の事例の分析を重視した教授方法。ケースとは、判例・事案・事象をさす。知識の獲得より、論理的思考力等を育成することを目的とする。

表5. 技能・態度の育成に有効な教育技法

㉔ ロールプレイング (Role Playing)	・ 実際の場面を想定して、参加者にその場面における役割を与え、演技させる技法。
㉕ バディ・メソッド (Buddy Method)	・ ダイビングの際に、2名でお互いが相手側の安全を確認しあう方法を語学学習や情報科学の学習などに応用した手法。
㉖ サービス・ラーニング (Service Learning)	・ 教室における学習と地域社会の諸課題を解決するために用意された奉仕活動を組み合わせた教授方法。
㉗ フィールド・ワーク (Fieldwork)	・ ある調査対象を研究する際に、現場を実際に訪れ、その対象を直接観察し、関係者に聞き取り調査やアンケート調査を行い、現地での史料・資料の採取を行うなど、学術的に客観的な成果を挙げるための調査方法。

3) データ収集の方法

講義の展開は、3人で1つのグループとなり、筆者の講義(単元の解説)を聴く。その後、グループ内で話し合いながら、テキストを見ないで課題

の答えを出し合う。授業終了前に配布した出席カードに授業内容またはグループでの話し合いの感想、質問などを記入するように伝え、回収した。

表6. 振り返りを促すための教育技法

⑳マインド・マップ (Mind Map)	・授業終了後の知識の定着を確認し、振り返りを行う方法。
㉑ワールド・カフェ (World Cafe)	・カフェのようにリラックスした雰囲気の中で、一つのテーマで4～5人で対話を行い、メンバーを一部変えながら3回程度対話を行う。一つのグループで出てきたアイデアが他のグループに伝播し、また新たなアイデアを生み出していくという話し合いの手法。
㉒ミニッツ・ペーパー (Minute Paper)	・授業時に配布し、学生にポイントや疑問、理解度、評価などを数分で記入してもらって回収するもの。
㉓授業新聞	・ミニッツ・ペーパー等で回収した学生コメントを読み上げる際に使う、他の学生のコメントを掲載した用紙。

4) データの方法

出席カードに書かれた内容を授業日別に書き写した。その中から、グループでの話し合いの感想、つまりアクティブラーニング型授業の効果や感想と思われる記述を抜き出した。

5) 倫理上の配慮

学生には、4月までの講義の中で、①出席カードの記述は授業改善と研究に活用する意思があること、②記述は無記名で表すため、個人が特定されないこと、③出席カードの管理は研究室で厳重に管理すること、④氏名のみで提出する際は、意見が無いが研究協力の意思がないと受け取ることを4点を伝え続けた。

なお、書面での説明は実施していない。

4. 結果

小林は、アクティブラーニング型授業の展開例として、65分授業を図1のように説明している^{7) 8)}。小林の授業例と時間外学習を含めて検討した筆者の授業展開は、表7の通りである。

出席カードに記入されたコメントは、表8にまとめた。4月から5月中旬までは約10%～30%程度であったが、5月下旬から徐々に減ってきた。なお、履修期間中に退学者が数名いたため、意見回収率にはわずかながら誤差がある。

筆者の講義とグループワークを組み合わせた授業展開は、コメントを見ると概ね好評であった。他者と会話することが苦手な学生もいるため、「答え合わせの内容を聞く。聞くだけでもよい」とした。授業の回数が進むにつれて、筆者の指導力や経験・準備の不足により、話し合いの時間と課題の量に整合性が伴わないことが多くなった。口頭でも話し合いの時間の確保の要望を聞くようになったため、6月29日の講義は最初に話し合いの時間を設けた。

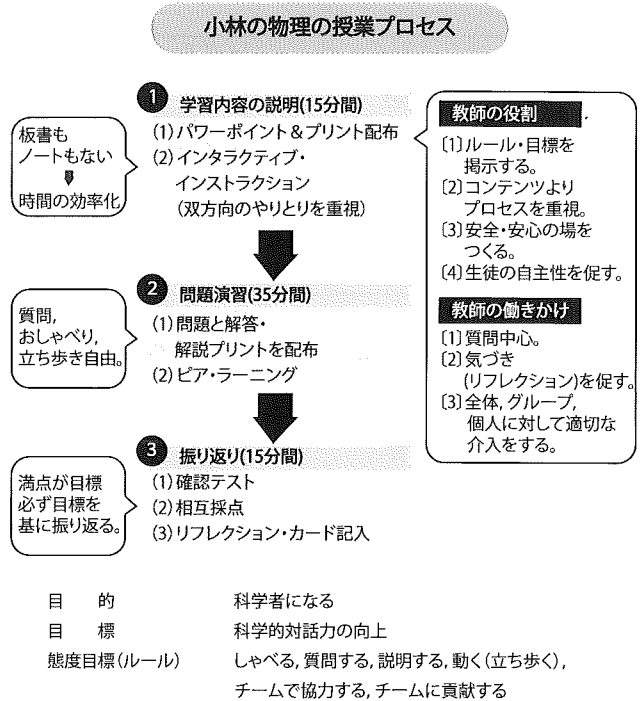


図1. 小林の授業展開例

表7. 4月からの授業展開

時間外学習	・単元の部分に目を通す
授業の導入 (10分)	・挨拶 ・前回の質問への返答 ・グループ分け
授業の展開 (45分)	・単元の内容の解説
授業のまとめ (30分)	・グループでの話し合い ・課題の答え合わせ
出席カード記入 (5分)	・感想を記入 ・来週の単元の紹介
時間外学習	・分かったこと、分からなかったことを振り返る

6月22日までの講義と29日の講義を比較して、良いと思った方の展開に変更することとした。学生から提出されたコメントを集計した結果、7月からの授業展開を表9の様に変更した。

表 8. 福祉入門の授業後のコメント

日付	4月20日	4月27日	5月11日	5月18日	5月25日	6月22日	
意見・感想	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のやり方はとてもよく、自分が分からないところを友達と分かり合えるのが良かった。 ・思い出したけれど思い出せないことで、覚えられそうではない。 ・今日の授業は、先週よりも面白くて、説明が簡単でよくわかりました。 ・最後の振り返りにより、その日の授業の内容がよく頭にのりまわりました。 ・最後のまとめのプリントは、大変良いと思います。 ・自分が覚えていなかったところを他の人は覚えていたのですごかった。 ・先生の説明も例などがあり分かりやすかったです。3人のグループになって話ながら復習できたことで頭に入ったと思います。 ・習ったばかりだったが、あまり思い浮かばなかった。 ・話し合いの場になりました。し、テスト勉強にも活かせるので良い方法になると思います。復習にもなると思います。 ・プリントがあり助かります。予習できます。 ・次はもっと覚えていられるように集中したい。 ・時間さえあれば良かったと思う。 ・もう少し、話す時間が欲しいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しんでました。 ・話し合っていないところが多かった。 ・1人じゃわからないことも、みんなでもやると少しは分かっていた。 ・最後の授業は、先週よりも面白くて、説明が簡単でよくわかりました。 ・最後の振り返りにより、その日の授業の内容がよく頭にのりまわりました。 ・自分が覚えていなかったところを他の人は覚えていたのですごかった。 ・先生の説明も例などがあり分かりやすかったです。3人のグループになって話ながら復習できたことで頭に入ったと思います。 ・習ったばかりだったが、あまり思い浮かばなかった。 ・話し合いの場になりました。し、テスト勉強にも活かせるので良い方法になると思います。復習にもなると思います。 ・プリントがあり助かります。予習できます。 ・次はもっと覚えていられるように集中したい。 ・時間さえあれば良かったと思う。 ・もう少し、話す時間が欲しいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんと覚えられるように頑張ります。 ・グループの分け方が面白い。 ・グループワークは、普段話せない人とも話せる。 ・最後、班の人と話し合うのはとても勉強になりました。 ・最後の話し合ってみんなで思い出すことで記憶に残りやすくなって、すごく勉強になりました。 ・少し前に勉強したことでも、なかなか思い出せないものだなと思いました。 ・楽しかったです（3名） ・人と話し合いながら問題を解いていくのは難しいです。 ・人と話すことが苦手なので、グループで話し合うことができなかった。 ・普段はあまり関わらない人と授業を受けるのは新鮮だった。 ・みんなで解くのが楽しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つ書くことができなくて、悔しかったです。 ・3人のグループで意見を出し合うことで言葉をつたえられなかった。 ・今日は特に話し合いがよくできました。 ・自分のあまり理解できていないところを丁寧に教えてもらいました。 ・楽しかったです。 ・話し合いがよくできました。 ・班での意見の出し合いをどうすれば良かったのか、班内ではできなかった。 ・プリントの答えを書く場所に混乱しました。 ・みんな協力してできました。 ・盛り上がりませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・覚えにくい語句がたくさん出てきましたが、グループで意見を話し合えてよかったです。 ・今日は、人の名前が出てこなかったのが悔しかったです。 ・今日も話し合いが上手に進みました。 ・楽しかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1枚は書きたかった。 ・あまり覚えていなくて、空欄が埋まらなかった。 	
	要望					<ul style="list-style-type: none"> ・話し合う時間がもう少しほしいです。 ・もう少し話し合いが良かったです。 	
	意見提出率	34%	9%	37%	29%	11%	9%

表9. 7月からの授業展開

時間外学習	・単元の部分に目を通す
授業の導入 (10分)	・挨拶 ・前回の質問への返答 ・前回の単元の解答配布 ・グループ分け
授業の展開 (45分)	・グループでの話し合い ・課題の
授業のまとめ (30分)	・単元の内容の解説
出席カード記入 (5分)	・感想を記入 ・来週の単元の紹介
時間外学習	・分かったこと、分からなかったことを振り返る

4. 考察

学生達の様子や意見から、約30分前に読んだこと、聞いたこと、覚えたと思っていたことは、意外に覚えていないことを実感したと思われる。そして、話し合うことによって、それを確認することができ、学びが深まっていると実感を得ることが分かった。平成29年度IR委員会の学習行動調査の自由記述の中に、「福祉入門」の感想として「問題に基づいて、グループディスカッションをして関係が親しくなった。授業の内容をよく覚えている」というコメントがあった⁹⁾。話し合うことを通して、自身の学びの深まりや交友関係のきっかけにつながったものと解釈し、アクティブラーニング型授業の成果・効果を感じた。

また、学生たちの様子から、アクティブラーニング型授業を初々しい感じで、楽しんで取りくんでいる印象を受けた。2017年度ソーシャルワーク教育全国研修大会にて講師を務めた佐藤に、小学生から大学生までのアクティブラーニングの現状を質問した。「アクティブラーニング型授業は、小学校ではよく取り組まれている。しかし、中学校・高等学校に上がるにつれて、教諭の話聞くだけの授業や知識を蓄える授業の比率が増えてくる。この傾向は、進学校では特に顕著になる」という回答を得た。福祉心理学科の入学生の多くは、進学校出身者の割合はそう多くない。そのため、アクティブラーニングを主体とした授業を実施していない中学校・高等学校からの出身、または時間外学習の姿勢を含めた受動的授業スタイルで勉強方法を続けてきたことが想像できる。

全国的に確認されているが、福祉心理学科の入学生にも、他者とのコミュニケーションに苦手意識を持っている学生がいる。また、診断を受けていない

が発達障害がある、またはその境界線にいる可能性がある入学生も少なからず入学していると思われる。「福祉入門」は、入学して間もない時期の開講科目であること、40代以上の長期履修生や留学生も少数ながら在籍することという福祉心理学科の特性を活かして、グループ分けは極力様々な学生と話ができるように心がけた。方法としては、誕生日や血液型、星座、名前のイニシャルなどを題材とし、男女比と留学生に配慮した3人1組のグループ分けをした。その中で、会話が得意な人や苦手な人、勉強が得意な人や苦手な人など、その人らしさの把握を促し、同期生・受講生の相互理解に努めた。しかし、他者との会話に苦手意識が強い学生が2人いると、会話をしなければならないと残りの1人が必要以上に頑張ったり、他者との会話に苦手意識が強い学生が3人揃うと個人ワークになったりするグループもあった。

一番の問題は、授業展開の時間をいかに厳守することである。特にグループワークを行う時間の確保と、そのための授業の準備、展開に創意工夫が必要である。導入部分や講義に手間取ると、グループでの話し合いの時間がその分、短くなる。そして、授業に対するコメントを考える意欲や記入する時間も削いでしまいかねない。小林は、アクティブラーニング型授業を紹介する中で、「目標や時間を設定すれば、授業は乱れない」「時間配分をあらかじめ伝え、それを厳守する」と述べている¹⁰⁾。これには、教員の教材の準備、授業の練習という教員側の取り組みもさることながら、課題の量と時間設定と学生の理解力などの見極めが必要だと考える。

5. 結果

1) 得られた知見

平成29年度の「福祉入門」の授業を通して、以下のことが明らかとなった。

- ①学生は、グループワークを用いて課題に取り組むことによって、学習内容がより理解できると実感している。
- ②学生は、グループワークを通して、正確に覚えていないことを認識する、互いに教え合うことで理解がより深まると認識している。
- ③普段は会話をしない学生同士でもグループワークができる、楽しめる学生がいる反面、なかなか馴染めない学生もいる。個人への対応と履修生全員の理解が必要である。

2) 今後の課題

- ①グループワークの時間を確保するための授業展開を組み立て、実行すること。
 - ②1人用の席を用意するなど、同期生との話し合いが難しい学生への対応をすること。それを認め合う合意形成をすること。
 - ③リアクションペーパーなどに、テキストの内容に関する質問とグループワークに関する意見を書けるようにすること。
 - ④学生に対して、研究への調査協力を書面にて求め、コメントの量と記入時間を確保すること。
- 大学生は、社会人として即戦力となること、そして即戦力であることが社会から期待されている。また、大学にはそのような学生の養成が求められている。だからこそ、大学生には主体的・対話的・深い学びに取り組む姿勢が、大学には主体的・対話的・深い学びができるまたは支える体制が求められていると考えられる。

筆者は、平成30年度の福祉心理学科の「福祉入門」と共に看護学科と食物栄養学科の「社会福祉論」を担当する予定である。今後の課題をふまえて、4年制大学として、対人援助職の養成校としてのアクティブラーニング型授業の展開を考え、取り組んでいきたい。

引用文献

- 1) 平成24年3月26日 中央教育審議会大学分科会 大学教育部会 「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ(審議まとめ)」 確認日 平成30年2月6日
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/04/02/1319185_1.pdf
- 2) 溝上慎一 (2014) 『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』 東信堂 p.7
- 3) 2) 再掲 p.7

- 4) 小林昭文 (2015) 『アクティブラーニング入門』 産業能率大学出版部 p.16-17
- 5) 4) 再掲 p.17,18
- 6) 佐藤浩章 (2017) 「アクティブ・ラーニングの考え方～今、なぜアクティブ・ラーニングなのか?～」 『2017年度 ソーシャルワーク教育全国研修大会 要旨集』, p19-28
- 7) 4) 再掲 p.21
- 8) 小林昭文監修 (2016) 『図解 アクティブラーニングがよくわかる本』 講談社 p.12-13
- 9) 平成29年度 IR 委員会 学習行動調査 宇部フロンティア大学 第211回 人間社会学部教授会 報告資料
- 10) 8) 再掲 p.30,44

参考文献

- 小林昭文、成田秀夫 (2015) 『今日から始めるアクティブラーニング』 学事出版
- 小林昭文 (2015) 『アクティブラーニング入門』 産業能率大学出版部
- 小林昭文、鈴木達哉、鈴木映司 (2015) 『アクティブラーニング実践』 産業能率大学出版部
- 小林昭文 (2017) 『アクティブラーニング入門 2』 産業能率大学出版部
- 松下佳代編著 (2015) 『ディープ・アクティブラーニング』 勁草書房
- 小山英樹、峯下隆志、鈴木建生 (2016) 『この1冊でわかる! アクティブラーニング』 PHP 研究所
- 西川純 (2015) 『すぐわかる! できる! アクティブ・ラーニング』 学陽書房
- 西川純 (2017) 『アクティブ・ラーニングの評価がわかる!』 学陽書房
- 中井俊樹編著 (2015) 『シリーズ大学の教授法 アクティブラーニング』 玉川大学出版部